



インカルチュレーションの歩みとしての 諸文化対話

インカルチュレーションがまことに何であるかを私たちに思い起こさせるのは、受肉以上に、ケノーシス（ご自分を無とされたキリストのへりくだり）です：みことばは肉となった、私たちを**神の栄光**へと回復させるために。（フィリピ2・6-11）

文化を伴わない信仰を前提とし、その信仰が異なる宗教を持つ文化に移植され、それ以前は互いに未知の存在であった**キリスト教信仰とその文化**が出会い、融合する、といったインカルチュレーションの理解は、観念的で非現実的です。キリスト教信仰は、いずれかの文化を持つ人々が生きる信仰です。実際、文化のないキリスト教も、あるいは真のキリスト教文化などというものも、存在しません。同様に、文化のない宗教はなく、宗教心のない文化ありません。

文化と信仰は密接に結ばれており、信仰を生み出した文化から信仰を切り離し別の文化に移植することは、信仰の根本を傷つけることになります。一方、人生の時間を旅する人は、新たな現実と出会い、それによって新たな洞察を得ます。同様に、**すべての文化は、出会いに開かれて**
いるなら、発展します。文化が持つ洞察や価値観は、出会いによって変容するのです。他方、ある文化が歴史のダイナミズムから自らを切り離し孤立するなら、その文化は死へと向かうでしょう。

それぞれの文化の価値観や実践のうちに表現される、豊かさをもたらす、あるいは人間性を奪う、さまざまな要素が明らかになるのは、諸文化の交流の過程においてです。福音のインカルチュレーションは、諸文化対話を通して実現します。諸文化は、**互いを豊かにし、健全な批判精神をもって交流する**この歩みによって、福音の新鮮さに開かれるよう刺激を受けます。こうして、ある文化の価値観や考えは豊かにされ、より広く深い地平が開かれ、その社会の生き方は、人間存在に意味を与える福音の理想を含むもの、あるいは少なくともそれを除外しないものになります。この歩みにおいてこそ、私たちは福音と相容れないものと、そうではないものとを識別するのです。

■ 宣教顧問

アルフレッド・マラヴィジャ神父 SDB

兄弟、姉妹、 友人の皆さん、

「わが神よ、あなたのために私は歌う、主よ、あなたをあかしする喜びを。」昔、友人たちと一緒にこの歌を歌いました。歌詞の意味を思い巡らしながら、キリストをあかしする喜びにあふれて生きたいという深い望みを、私は体験しました。

初代キリスト者共同体の時代以来、イエス・キリストが自分たちの生き方、行動を導く光であると確信する人々のあかしは、イエス・キリストを告げ知らせるために最も説得力をもってきました。私たちが、幸せな、飾らない生き方、兄弟愛と共感に満ちた生き方によって福音をあかしするとき、生きていることの意味を探し求めている人々のために、たとえ最も苦しい困難のただ中であっても、選び取ることできるものとして福音を差し出すことが可能になります。小さな者、貧しい者への、受肉した、目に見える、具体的な神の「愛」という喜びの知らせを運ぶ者となるよう、ドン・ボスコは私たちに招きます。それがサレジオ会宣教師の任務であると、私は信じます。

■ インターアメリカ地域顧問
ウーゴ・オロスコ神父, SDB

振り返りと 分かち合いの ために

- 私はほかの文化によって豊かにされるために、心を開いているだろうか？
- 私は、キリストへの信仰の生きた体験を分かち合う勇氣を持っているだろうか？



ベネズエラ — 駆けだす若者たち、そしてミッション

サレジオ会ベネズエラ管区には、カテキスタとの協働のすばらしい豊かな伝統があります。ベネズエラのカテキスタは、ただカトリックの教義を教えるだけでなく、子ども・若者に、生けるキリストとの関わりをどのように「伝達」しているのでしょうか。

私たちは、さまざまな社会的文脈のうちに生きられる生活文化の場面を通してメッセージを伝え、イエスという方を示すように努めています：友情、家庭 — 大きな家族単位で — 温かい歓待……そのようにして、イエスこそが「友」、「兄弟」となり、私たちを訪れ、私たちの家に住まれる方となります。

サレジオ会の宣教促進の中で、どのような良い体験がありますか。

アマゾン地方の先住民族の人々と共に働くサレジオ会員は、福音のメッセージがよりよく表現され理解される先住民族の言語、しるし、シンボル、文化的範疇を通して再構築されたカテケーシスの経験を私たちに伝えてくれます。

例えば、カテケーシスは、祝祭日の祝いが核となって構成され、準備を伴う典礼となります（さまざまなメッセージ、歌、演芸、芸術表現……）そのようにしてカテケーシスは生きた典礼と結び合わされます。

多くの人がベネズエラから近隣諸国に逃れています。サレジオ会としてその決断をする人々をサポートしていますか、それとも留まるよう説得していますか。

移住の決断は、常に非常に辛いものです。特に歴史上、そのような経験をしたことのない国では。若者はほかの選択肢や解決策を夢見ますが、それは短期的に終わるものかもしれません。若者たちは、助言をすんなりとは受け入れません。家族の必要を満たすため、当座の結果を求めるからです。私たちは、ほかの国々のサレジオ会が運営する団体と連絡を保っています。人道的支援を調整したり、仕事や勉学の可能性を見いだすために導きが必要な特別なケースを支援したりするためです。他方、私たちの職業訓練センターやユースセンターでは、短期の職業訓練のさまざまな機会を若者たちに提供し、ベネズエラのより良い未来への希望の火を彼らの心に灯しています。



ホルベ・バスティダス神父, SDB

ベネズエラの**カラカス**出身。カラカスでサレジオ会員となり(2005)、司祭に叙階(2014)。ロス・テケスとカラカスで哲学、教育学、神学を学んだ後、ローマの教皇庁立サレジオ大学UPSで哲学と神学の学士号を取得。2014年から3年間、フント・フィホ、「ファルコン」で、**職業訓練センター**とユースセンター／オラトリオの責任者として働く。その後、ローマのUPSに送られ、**青少年司牧**を専攻、2年間学ぶ。現在は管区評議員、管区長ラファエル・モンテネグロ神父(VEN)の青少年司牧**テレガート**を務める。



宣教部門の新しいロゴマーク

フ
ォ
ー
ラム

サレジオ会宣教部門は、新たな年、2022年に向け、新しいロゴマークを発表します。ロゴマークのシンボルの意味は：

- イエス、そしてサレジオ霊性 — サレジオの十字架
- 国際性 — 五大大陸を表す5つの色
- 人々 — 人間を大切にすること
- カリスマ — 聖霊の炎
- 愛 — 父である神の愛の炎
- 神秘 — モーセの燃える柴
- マリア — 「宣教のロザリオ」の珠



12月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

カテキスタのために

ベネズエラで、
社会経済的な困難の中にあっても、神の愛が告げ知らされ、あかしされますように。
神のみことばを告げるために呼び集められたカテキスタのために祈りましょう。勇気と創意工夫をもって、そして聖霊の力によって、みことばをあかしできますように。 | 教皇フランシスコの祈りの意向 |

アメリカ大陸の
ために

